

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

福岡県田川郡福智町

学校名

福智町立赤池中学校

学校のURL

なし

2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】全学年各3学級、【特別支援学級】2学級、【合計】11学級

児童生徒数

【全生徒数】246人（平成23年4月10日現在）
（内訳：1年生79人、2年生70人、3年生97人）

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

「志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい生徒の育成」

【人権教育に関する目標】

「豊かな人間関係を育み、自他の人権を尊重し、ともに学び合う生徒の育成」

人権教育にかかる取組の全体概要

本校は、福岡県教育委員会より「人権尊重の学校づくり推進指定校事業」（平成21～23年度）の指定を受け、「人権が尊重される人間関係づくり」をテーマとして研究実践を行った。

具体的には、自分の存在価値を実感し、他者の立場を尊重した豊かなコミュニケーション能力を育成するために、「人間関係づくり」を基盤とし「基礎学力の向上」「生活環境の充実」を関連づけた。

研究実践を効果的に進めるにあたっては、本校の重点課題解決のために組織していた「学力向上」「いじめ・不登校解消」「人間関係づくり」を再編し、「いじめ・不登校解消」を「環境整備」と改め、全教職員がいずれかに所属する新プロジェクトを立ち上げた。

【本校研究の概要】



3. 特色ある実践事例の内容

1 本校の実態から

本校の生徒は、素直で真面目な面があるが、自分の言動が他者に及ぼす影響についての自己認知能力が十分とは言えず、他者との人間関係づくりを苦手としている者が多い。そのため、自己防衛を目的とした安易な迎合や小集団の形成によって他者を排除する等、日常的に安心して過ごしていく環境ができやすい。こういった状況は、生徒間のトラブルや欠席等につながったり、学力向上の阻害要因となったりもする。これらの課題を解決するためには、学校生活において自分の存在価値を実感し、他者の立場を尊重した豊かなコミュニケーション能力を育成し、安心して生活し学ぶことのできる環境を整備することが必要であると考え、研究主題を「自他の人権を尊重し、豊かな人間関係を育む学校づくり」と設定した。



【中庭花壇と校舎】

2 人権が尊重される人間関係づくりの取組の実際

(1) 学級を基盤としたピア・サポート、ソーシャルスキルズトレーニング (SST)

平成19年度まで、本校では1・2年生時にピア・サポートの活動1(基本トレーニング)を数時間行い、3年生では活動2(行事等での実践的トレーニング)を行ってきた。平成20年度からは、更に効果をあげるようSSTも追加し、活動時間数を増やし、年間指導計画【資料1】を作成し実施している。



【3年生のSST活動】

(2) 3年生のリーダーシップを育成する取組

1・2年生では各活動を通して人間関係調整能力の育成を図り、3年生ではさらに学校のリーダーとしての役割を各取組に位置づける。そして、新学期から行われる異年齢集団による活動毎に自己評価や下級生からの評価【資料2・3】をさせている。これらの評価活動により、3年生の振り返りがより客観的になり、相手の立場や考えを考慮したリーダーシップの在り方を考えることができるようになった。

(3) 全校生徒による縦割り「きょうだい班」活動の実施

ピア・サポートの活動2にあたる取組を、本校では「きょうだい班」活動として実施してきた。「きょうだい班」は、1年生から3年生までの縦割りで、生活班をベースにした15名前後のグループ(3学級あるため計18班)である。



【「きょうだい班」集会】

年毎に活動場面を広げながら、特に体育会、文化祭においては時間割を調整し継続的に十分な取組を行い、それぞれの学年に応じた役割を意識させることで、人間関係づくりの促進を図っている。

<年間「きょうだい班」活動>

活動名	活動時期	内容
歓迎遠足	年1回	全校生徒による福智山登山
体育会	年1回	ブロック及び「きょうだい班」対抗種目の実施
会食	週1回	「きょうだい班」での給食
学校花壇づくり	年2回	種まき・苗の定植
文化祭	2学期	ブロックによる合唱、暗唱
掃除	3学期	「きょうだい班」での掃除
全校集会	月1回	ピア・サポート活動等

ピア・サポート、ソーシャルスキルズトレーニング（SST）

新年度が始まると、「きょうだい班」が編成される。自己紹介から始まり、ピア・サポート活動、SSTへと発展させる。毎月1回の全校集会や各学校行事の前後にも実施している。この集会により、異年齢であることによる壁を徐々に取り除き、親しみを感じる人間関係を醸成することができている。

歓迎遠足

「きょうだい班」の最初の活動として本校の東にぞびえる福智山（標高901m）



【福智山頂上】

への登山を行い、新入生の歓迎行事としている。最上級生になったばかりの3年生がリーダーシップを発揮する初めての場面となる。3年生が下級生に声かけをしたり荷物を持ってやったりとリーダーとして活動する出発点となり、1・2年生は3年生に対して頼もしさを感じる最初の出会いとなる。

体育会

5月に行われる体育会では、学年や男女別種目に加え、「きょうだい班」による「リレー」と「大縄跳び」、「綱引き」、「ムカデ競走」の3種目を設定する。3年生が中心となり、練習したり作戦を立てたりと、率先して取り組む姿が見られる。当日も学年を超えて積極的に応援する姿も見られ、下級生の信頼が更に高まっていく。

花壇づくり

6月に行われる花壇づくりでは、これまでは少し消極的だった3年生からも下級生への指示や、各学年が混じって活動する光景が見られるようになる。2回目となる秋の花壇づくりでは、3年生一人一人が6月の活動の具体的な反省を生かし、リーダーとして成長した自分に気付く機会となる。



【花苗の定植】

文化祭

10月の文化祭では、学級毎の合唱や学習発表に加え、ブロックによる合唱と暗唱を実施している。練習期間中、3年生が練習計画を立て、下級生を指導したり共に活動したりする姿が随所に見られるようになる。これまで一方通行だったコミュニケーションも相互に行われるようになり、「先輩達のような3年生になりたい」という思いが下級生に芽生え



【ブロック合唱】

ていく。

「きょうだい班」給食

「きょうだい班」の活動は学校行事に止まらず、週1回の「きょうだい班」給食で交流を深めている。2年生が座席を準備し、3年生がつぎ分けたものを1・2年生が配膳し、毎回和やかな雰囲気と一緒に食事をとっている。



【楽しい会食】

4. 実践事例の実績、実施による効果

「人間関係づくり」を基盤とした新プロジェクトの相乗効果として次のようなものが挙げられる。

学年が進むにつれての落ち着いた生活【自尊感情の向上】

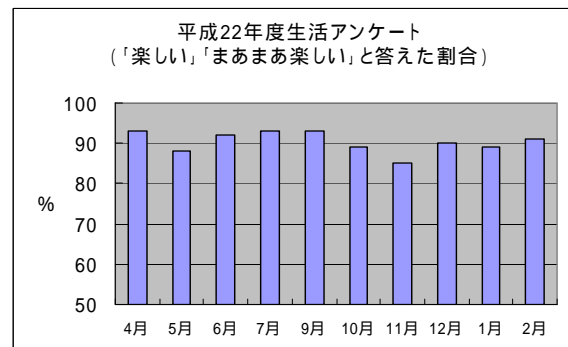
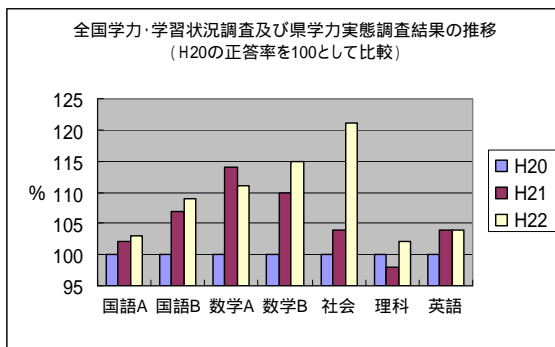
生徒間（学級、学年）トラブルの大幅な減少【適切な人間関係の構築】

学力の向上【低学力克服の傾向、自学自習能力の向上】

教師の学習指導力の向上【新学習指導要領、人権の視点を踏まえた授業】

協働指導体制の充実【プロジェクトによる取組】

学校内外の環境の充実【豊かな心の醸成、人権意識の日常的な啓発】



5. 実践事例についての評価

<保護者アンケートより>

あいさつを元気にしてくれる生徒が多いことに驚きました。また、上下の学年の雰囲気がとても温かいと感じました。「きょうだい班」での取組による成果だと思います。

各ブロックとも、3年生が中心となって、よく下級生の指導をしていたと思います。素晴らしいと思いました。

子ども達の主体的な活動の姿や、リーダーとしての3年生の姿など、子どもたちの素敵な姿にふれさせていただきました。

保護者アンケートからも生徒の変容や学校に対する期待や評価が実感できる。今後は以下の課題を解決して、「自他の人権を尊重し豊かな人間関係を育む学校づくり」の実現を目指したい。

学校生活の基礎となる学級活動の充実【特別活動年間指導計画の見直し】

家庭・地域との一層の連携【きめ細かな情報の公開、多様な懇談場面の設定】

【資料1 学級活動で実施する集団づくりの年間計画】

月	実行計画	実履活動	ね 点	い
4月	入学式 発祥集 歓迎会 修学旅行	プラインドウォーク 4月11日 -X決起会 4月11日	エンカウ （人間関係） エンカウ （自己理解）	○人間は、誰かそばにいてくれることにより安心して生活できることを意識し、仲間として生活することを目指す。 ○中学校生活の窓口となる担任と協力し、不安を解消するとともに、担任の問いかけに積極的に対応できるようにする。
5月	修学旅行	思い出のアルバム 5月11日	エンカウ （自己理解）	○修学旅行の思い出を振り返り、仲間と協力して生活することを目指す。
6月	中間考査 期末考査	番はどなかでど 6月11日	エンカウ （態度）	○生活が安定したとき、誰かに頼られる人のために必要な生活態度を身に付ける。
7月		あふりカード 7月11日	エンカウ （自己理解）	○自分の強みや弱みを伝え合うこと、互いに認め合える関係を築く。
8月	ふれあい宣言	一夏の短歌 8月11日	エンカウ （態度）	○互いの強みや弱みを伝え合うこと、互いに認め合える関係を築く。
9月	中間考査	思いに伝わる言葉 9月11日	エンカウ （自己理解）	○自分の強みや弱みを伝え合うこと、互いに認め合える関係を築く。
10月	文化祭 期末考査	丹精書 10月11日	エンカウ （自己理解）	○自分の強みや弱みを伝え合うこと、互いに認め合える関係を築く。
11月	生徒会選挙	思い出のアルバム 11月11日	リーシェ （自己理解）	○思い出のアルバムを振り返り、仲間と協力して生活することを目指す。
12月		仲間意識のテスト 12月11日	リーシェ （自己理解）	○仲間意識のテストを行い、仲間と協力して生活することを目指す。
1月	期末考査	力になるために 1月11日	リーシェ （自己理解）	○力になるために必要な生活態度を身に付ける。
2月	卒業式 修学旅行	卒業式 2月11日	リーシェ （自己理解）	○卒業式を振り返り、仲間と協力して生活することを目指す。
3月		思い出のアルバム 3月11日	リーシェ （自己理解）	○思い出のアルバムを振り返り、仲間と協力して生活することを目指す。

【資料2 集団活動アンケート記入例（1年生）】

4月19日

きょうだい班活動に関するアンケート（1・2年生）

○今日のきょうだい班集会について書いてください。

1年 3組 14番 氏名 (2) 班

1 きょうだい班集会で楽しく活動できましたか。

とても (とても) あまり まったく

上を選んだ理由を書いてください。
みんなが11月の行事で、たのしくてよかった。

2 3年生プロジェクトのブロック目標（スローガン）の説明は、わかりましたか。

(とても) まあまあ あまり まったく

上を選んだ理由を書いてください。
とてもわかりやすく、言葉もやさしく、たのしかったです。

3 3年生は、きょうだい班の話し合い（自己紹介やきょうだい班活動の説明など）を、しつかりと進めてくれましたか。

とても (あまり) まあまあ ほとんど ほとんど

上を選んだ理由を書いてください。
自己紹介まで話さなかったが、きょうだい班生活が楽しかったこと、お話しを聞いてくれる人が多かった。

4 3年生は、きょうだい班の話し合い（自己紹介やきょうだい班活動の説明など）の時に、やさしく声をかけたり、質問や意見を聞いてくれたりしましたか。

(とても) まあまあ あまり ほとんど ほとんど

上を選んだ理由を書いてください。
自己紹介を丁寧に聞いてくれたり、お話しが面白かったです。

5 今後きょうだい班活動がんばろうと思いませんか。

(とても) まあまあ あまり ほとんど ほとんど

【資料3 集団活動アンケート記入例（3年生）】

4月19日 せようだい運動会に関するアンケート（3年生）

○今年のもようない組運動会について書いてください。

3年 3組 3番 長尾 (2) 番

1. 今年のもようない組運動会、あなたの目は何を見ていたか。
盛り上げること。

2. 今年のもようない組運動会の目は何を見ていましたか。
 ことば 感動ある (感動) 良かった
上を眺めた運動会を見てください。印象としては、上を眺めた運動会が、しっかりと見ることができました。(リレーやモリや、たかや)

3. せようだいの目を詳しく書いてください(自己紹介やせようだいの運動会の説明など)も、しっかりと書けることはできましたか。
 ことば 感動ある (感動) 良かった
上を眺めた運動会を見てください。印象としては、上を眺めた運動会が、しっかりと見ることができました。(リレーやモリや、たかや)

4. せようだいの目を詳しく書いてください(自己紹介やせようだいの運動会の説明など)の時、下書きに対して、やさしく声をかけたか、質問や意見を伺いましたか。
 ことば 感動ある あり 良かった
上を眺めた運動会を見てください。印象としては、上を眺めた運動会が、しっかりと見ることができました。(リレーやモリや、たかや)

5. これからのせようだいの運動会で、3年生としてどんなことをがんばりますか。
し、せ、3年生として、リレーやモリや、たかやが、頑張りたいと思います。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

福智町立赤池中学校

学校生活の基盤を支える人間関係を人権教育のベースにおくという明確な方針のもとで、学級活動や学校行事を中心とした多様な取組が意識的に設定されている。「自他の人権」を尊重する「豊かな人間関係」を学級活動の軸に据え、第1学年から第2学年にかけてエンカウンター、ソーシャルスキル、ピアサポートなどを継続的に積み重ね、第3学年になると、給食、遠足、体育会、花壇作り、文化祭などに取り入れた異学年による縦割り活動（きょうだい班）のリーダーの役割を担わせるなど、発達の段階をふまえて年間を通した活動が意識的に準備されている。また、このような年間を通した意識的な人権教育の取組は、人権感覚の育成を学校生活や社会生活に必須で最優先の資質や能力とする学校や教師の認識を、子ども、家庭に知らせ、理解を得る上でも重要である。